

会 議 録

会議の名称	令和8年度所沢市自立支援協議会 第1回定例会
開催日時	令和8年5月18日（月） 14時から15時40分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号
出席者の氏名 （敬称略）	会 長 坪井 弘直 委 員 竹本 耕造、中川 美奈子、倉部 陽司、 豊田 淳一、田島 誠、伊東 晃子、 大門 竜司、高橋 育子、横山 創、島子 留実、 稲場 美穂、柚原 正子、新井 真由美、坪井 健、 安田 美代子、大熊 有紀、内海 文江、 内野 誠、松本 弘、山田 寛俊 室田 由美（代理出席；北 敦夫）
欠席者の氏名	真壁 毅、藤澤 知咲、涌井 勝敬
議事	(1) 令和7年度各部会活動報告及び令和8年度各部会活動 計画について (2) 令和7年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告 について (3) 日中サービス支援型共同生活援助に係る報告・評価シ ートについて
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 所沢市自立支援協議会委員名簿</li> <li>・ 令和8年度所沢市自立支援協議会部会編成</li> <li>・ 令和8年度部会スケジュール</li> <li>・ 令和7年度所沢市自立支援協議会各部会活動報告書及び令 和8年度所沢市自立支援協議会各部会年間計画（資料1）</li> <li>・ 令和7年度所沢市相談支援事業業務委託事業報告（資料2）</li> <li>・ 日中サービス支援型共同生活援助に係る報告・評価シート （資料3）</li> </ul>

担当部課名	障害福祉課 廣谷課長、長谷川主査、 高安主査、伊藤主任、井上主任 こども福祉課 藤澤課長、宮武副主幹、大久保主査 保健センター健康管理課 一色課長、小野寺主幹、千葉主幹 (事務局) 福祉部障害福祉課
発言者	審議の内容 (審議経過・決定事項等)
	1 開会
	・課長あいさつ
事務局	・委員変更の報告
委員	・委員あいさつ
	副会長の選出
委員・事務局	・委員より副会長に新井真由美氏が推薦され、全会一致で承認される。
委員	・坪井会長より開会の挨拶
事務局 (市)	・配布資料の確認。 ・所沢市自立支援協議会運営要綱の規定により、会議の議事進行を坪井会長に委任。
会 長	・傍聴希望者数の確認 (傍聴希望者 1 名)
	・傍聴人入室
	2 議事
	(1) 令和 7 年度各部会活動報告及び令和 8 年度各部会活動計画について
委員 (さぽっと)	こども部会令和 7 年度活動報告 (内容は資料のとおり) ・ここ数年は、知的グループと情緒グループの二つに分けて部会を開催している。 ・知的グループでは、児童の意向を汲み取った支援をテーマに掲げており、ストレングスモデルやリフレーミングの知識を深めるとともに、学校と福祉が共通のツールを使用して情報を共有することの重要性を再認識した。 ・情緒グループでは、当事者の声を直接聞くことをテーマに、大学進学を控えた高校生本人からインタビュー形式で意見をもらうことで、寄り添う姿勢の大切さを再認識した。 ・放課後等デイサービスの事業所見学会について、学校教員、教育センター職員が参加し、実際の福祉の現場を見ることで、支援のヒントを得ることができたなど、満足度が高いものになった。

	<p>令和8年度各部会活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的グループでは、引き続き児童の意向を汲み取った支援の在り方をテーマとし、本人への支援、家庭、学校、福祉での支援目標やアセスメントがバラバラにならないよう実際の事例を基にケース検討を行っていく。</li> <li>・情緒グループでは、特性や資源への理解を深めるとともに、不登校支援や普通級と支援級の狭間にいる児童への支援について、教育センターやこども家庭センター情報共有の場を設ける。また、引き続き本人や保護者の声を聞く機会を設け、地域の子ども食堂などインフォーマルな資源を理解し、居場所としてどのように繋がっていくかを探っていく。</li> <li>・放課後等デイサービスの見学会については継続して行い、多くの教員が参加できるよう、学校教育課と協議していく。</li> </ul>
<p>委員 （こみゅーと）</p>	<p>重症心身障害部会令和7年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期は新たに設けた作業部会をメインに、下半期は事業所部会を交えた報告をメインに行った。</li> <li>・作業部会では、生活介護事業所アンケートを作成したほか、事業所向け、保護者向けに行ったアンケートを行い、送迎希望や17時以降の帰宅希望などの回答を得た。</li> <li>・下半期では、ねっこぼっこの家、訪問看護ステーショントータルケア小手指より事業所の実践報告を行ってもらい、参加者からも好評であった。</li> <li>・アンケートの結果を3月の部会で共有したところ、浮かび上がった課題について、令和8年度の課題とした。</li> </ul> <p>重症心身障害部会令和8年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上半期では、作業部会を通して生活介護事業者アンケートを正式な資料として発表ができるようにしていく。</li> <li>・下半期では、事業所見学会を行う予定となっている。</li> <li>・実践報告会は、9月・2月にグループホームや日中活動の場を見学する予定となっている。</li> <li>・事業所間の連携を求められることが多いため、横の連携を深めていきたい。</li> </ul>
<p>委員 （どんぐり）</p>	<p>こころ部会令和7年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の協議をとおして明らかになった課題について、制度の狭間、身寄りのない人など、共通したキーワードがあり、地域の課題になっていくのではないかと。</li> <li>・顔の見える関係づくり、自分たちで抱え込まない意識を作ることができた。新しものを作るよりも、今あるものを整理し、</li> </ul>

	<p>活用するきっかけとなった。</p> <p>こころ部会令和8年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体2回、委員会7回を行い、地域連携に重点を置いて話し合う予定となっている。</li> <li>・個別支援を行う際の考え方や、連携を行う際の考え方など、課題が明らかになったため、地域連携をどのように生かしていくのかが主な課題となる。</li> </ul>
<p>委員 （基幹相談支援センター）</p>	<p>研修部会令和7年度事業報告（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修委員と研修企画チームで話し合い、研修を企画、実施した。</li> <li>・交流研修、カスタマーハラスメントの研修も行い、どちらも高評価であった。</li> <li>・虐待防止の動画は県の動画を各事業所に配信し、各自で研修を行ってもらったが、配信時期が遅かったため、令和8年度については早めの配信を行う。</li> </ul> <p>研修部会令和8年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流型の研修、及びカスハラ研修の二本立てで行う予定だったが、顔を合わせる研修のニーズが高く、人材育成が共通の課題でもあるため、企画チームと話し合っていく。</li> <li>・昨年度の反省として、虐待防止の動画の配信が遅かったという点があるため、夏くらいまでには動画の配信ができるようにしたい。</li> </ul>
<p>委員 （基幹相談支援センター）</p>	<p>相談支援部会令和7年度事業報告（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託相談の負担軽減、主任相談支援専門員が増加したことから、委員会という形で会議を行った。</li> <li>・初任者フォローアップ研修を市の職員とともに行った。</li> <li>・委員会形式となったことで、顔を合わす機会が減り、情報交換等ができないとの声があったため、令和8年度は改善していく。</li> <li>・しゃべり場については、参加される方が固定されてしまうことや、少人数で行うことも多いため、やり方を考え直す必要がある。</li> <li>・グループスーパービジョンについては、参加した人から好評ではあるが、ケースを出すことが負担になっているため改善していく。</li> </ul> <p>相談支援部会令和8年度事業計画（内容は資料のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の全体会と、各委託事業所をリーダーとした各グルー</li> </ul>

	<p>プのミーティングを再開する予定となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループスーパービジョンと相談しゃべり場についても引き続き行う。</li> <li>・令和7年度より協働モデルを取り組んでおり、現在5事業所が参加している。こみゅーとグループを中心に協働体の運営をしていただいているため、基幹としてフォローしつつ見守っていく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答・意見なし</li> </ul>
	<p>(2) 令和7年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>
委員 (さぽっと)	<p>(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数は増加している。</li> <li>・専門的知識を要する、又は他機関との連携が必要なケースについて、いくつか具体的事例を挙げた。</li> <li>・ピアカウンセリングを開始して3年目となったが、カウンセラー自身の体験を踏まえたカウンセリングを行うことで、相談者の採用が決まるなど確かな成果に繋がっている。</li> <li>・生活介護事業所連絡会議、障害児通所支援事業所連絡会議各会議を年2回開催し、事業所や相談支援事業所、行政などが参加し意見交換を行った。</li> <li>・今後の課題と展望について、本人及び保護者の高齢化による介護の低下、身体機能低下に伴う施設入居者の転居先確保が課題として挙げられる。</li> <li>・自立支援協議会のネットワークを活かし、他事業所のスーパーバイザーを通じて、地域全体の相談支援の質を上げていく。</li> </ul>
委員 (こみゅーと)	<p>(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託の利用人数は微減しているが、全体の利用人数は前年とほぼ同じ。</li> <li>・軽度知的障害や精神障害の方など、障害支援区分は高くないが生きにくさを感じている方への支援が多かった。</li> <li>・保護者が不安定なケースなども増えてきているため。こども家庭センターや児童相談所とも連携して支援していく。</li> <li>・専門的な支援に関しては、精神的に不安定な方、またそれを支える家族全体の支援など、医療関係との連携が市を超えることも増えてきている。また、地域でのトラブル、夜間緊急対応など、専門的な知識を持ちつつ柔軟な支援を行った。</li> <li>・地域課題として、重症心身障害の方を受け入れる事業所が少ない、移動支援や生活サポートを提供する事業所が少ないという点が挙げられる。また、障害当事者や保護者からのカスタマーハラスメントが発生しており、事業所として録音機を</li> </ul>

	<p>設置するなどの対策を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定相談支援事業所からの相談は随時受け付けた。</li> <li>・ピアカウンセリングについて、グループホーム利用者とグループホームの利用を考えている方とで「座談会」を開催した。</li> <li>・ぷらっとマーケットガレリア販売では、5団体、6事業所での販売となった。</li> <li>・就労継続支援事業所連絡会は年2回開催し、上半期は実践報告と意見交換、下半期は新制度である就労選択支援をテーマに障害福祉課から説明と質疑応答があった。</li> </ul>
<p>委員 (どんぐり)</p>	<p>(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者家族会が母体となって設立された法人のため、利用者は8割が精神障害者の相談が占める。利用者数、相談件数ともに減少傾向であるが、職員の退職に伴い、担当利用者を他の事業所に割り振ったことが理由と考えられる。</li> <li>・委託相談では、長期入院者の退院支援、施設から自宅に戻った後のサービスコーディネートなど比較的密な支援が必要なケースが複数あった。</li> <li>・既存の福祉サービスに繋がりにくい利用者については、相談員が定期的に訪問し、直接支援を行うケース、訪問看護に繋げ定期的にケア会議を行うケースもあった。</li> <li>・住居の問題というのが大きな問題としてある。(保護者が亡くなり、家賃が払えず、施設に入るのも困難なケース。ローンが払える見込みがなく、家に住めなくなる可能性があるケース) このように住居に関する問題が多く、どこかに繋げる必要がある。</li> </ul>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>(内容は資料のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・件数などはほぼ前年度どおり。総合的な窓口として、当事者家族だけでなく、様々な機関からも相談を受けている。</li> <li>・市内の相談支援体制整備について、協働モデルを実施し、市内5事業所と協定を結ぶことができた。</li> <li>・地域移行、地域定着について、新規の依頼や実績がなかったが、今後必要性が高まっていく状況もあることから、地域の中で利用者の方が有意義に生活できるよう力を入れていく。</li> <li>・権利擁護、虐待防止について、虐待防止マニュアルの改正があったため、基幹に声がかかったケースは減ったが、グループホーム職員による案件が目立っていた。引き続き虐待防止の周知啓発には力を入れて取り組んでいく。</li> <li>・地域生活支援拠点、緊急相談支援について、引き続き検討を重ねるべき課題となっている。同居家族の高齢化など家庭で過ごせない障害者の緊急対応だけでなく、緊急を緊急にさせ</li> </ul>

	<p>ない対応や、地域で生活する体験の場の拡充など、行政や事業所と意見交換をしながら行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間の電話対応はすでに取り組んでいるが、緊急時の対応についての不安も解消していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答、意見</li> <li>・様々なケースを取り扱う中で、背景が複合化している状況にある。それぞれの立場から考え得る対応を共有しながら前に進めようとしていることが良く分かった。課題意識を持ちながらみなさんが進んでいるので、令和8年度もより良い方向に進んでいくことに期待を持っている。</li> <li>・生活介護事業者や保護者へのアンケートを行うことで、ニーズを吸い上げ、ミスマッチがないよう探った。</li> </ul> <p>その中で、医ケア児支援法が制定され、家族支援への視点が広がりつつある中、本人にとっての支援を考えていくことの重要性を強く感じた。</p> <p>こころ部会の中で「制度の狭間」がキーワードとして挙げられたが、今、福祉の中で「狭間」というのがキーワードになっている。所沢市で誰一人取りこぼすことなく支援が受けられるよう、そのために自分に何ができるのか考えたい。また、自立支援協議会の皆さんのお力で所沢市の狭間がなくなるのを微力ながらお力添えしたい。</p>
	(3) 日中サービス支援型共同生活援助に係る報告・評価シートについて
事務局（市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中サービス支援型共同生活援助に係る報告・評価シートについて、以下の2点を増設した。</li> <li>①項目3「地域に開かれた運営」に「地域連携推進協議会を実施しているか」</li> <li>②項目13「その他（市町村独自設定項目）」に「法人のガバナンス・コンプライアンス確保のために行っている取組はあるか」</li> </ul>
	・質疑応答、意見なし
	・事務局より連絡事項
事務局（市）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の開催は10月下旬から11月上旬</li> <li>・詳細については決まり次第改めて通知する。</li> </ul>
会長	本日の疑義を終了とする。
	3 閉会
副会長	・副会長あいさつ